令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年では観点別正答率において、3観点ともに目標値を上回った。領域別正答率では特に「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」の分野で目標値を大きく上回っている。
- ・第2学年では観点別正答率において、3観点ともに目標値を上回った。領域別正答率では特に「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の分野で目標値を大きく上回っている。
- ・第3学年では観点別正答率において、3観点ともに目標値を上回った。領域別正答率では特に「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の分野で目標値を大きく上回っている。

(2) 課題

- ・第1学年では領域別正答率において、目標値を下回る分野はなかったが、内容別正答率において「漢字を書く」が目標値を大幅に下回った。教育漢字を正確に書く力をつけることが求められる。
- ・第2学年では領域別正答率において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の分野で目標値を下回った。内容別正答率でも「文法・語句に関する事項」で目標値を下回っているので、基本的な文法の定着や語句に関する知識を増やすことが求められる。
- ・第3学年では領域別正答率において、目標値を下回る分野はなかったが、内容別正答率において「漢字を書く」が目標値を下回った。漢字学習の習慣化、正確に書く力が求められる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	校内正答率は全国及び区の平均を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」において高い正答率であった。	/	/
第2学年	教科の正答率として全体的に目標値を上回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」において高い正答率であった。	教科の正答率として全体的に目標値を上回っている。特に書くことの領域において高い正答率であった。	/
第3学年	教科の正答率として全体的に目標値を上回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」において高い正答率であった。	教科の正答率としては「知識・技能」観点を除き、目標値を上回っている。書く能力の領域について高い正答率であった。	教科の正答率として全体的に目標値を上回っている。特に読む能力の領域において高い正答率であった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回った。「漢字の書き」と「文法」に課題が見られる。漢字の書きは、語形を曖昧に記憶しているため、正確性に欠ける。	目標値を大きく上回った。「書くこと」では、自分の考えが伝わるように、明確にして書くことに課題がある。	目標値を上回った。意図に応じて話の内容を捉え、適切な質問をすることに課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。一方で、文法・語句に関する事項という項目で目標値を下回るなどの課題が見られる。	目標値を上回っている。特に読むことに関する問題では、「説明的な文章の内容を読み取る」という問題において適切に書くことができた。	目標値を上回っている。「調べたことをスピーチする」という問題では、話の内容を捉え自分の考えをまとめるということに、課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。特に文法・語句に関する問題は目標値を大きく上回っている一方で、漢字の書きについて正確性に欠ける結果となった。	目標値を上回っている。特に「紹介する文章を書く」に関する問題では自分の考えたことをわかりやすく相手に伝えることができた。	目標値を上回っている。話の内容を正確に聴き取ることに対して、課題見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教育漢字の書きについて、漢字の小テストを継続して行い、日常的な漢字練習の場面を設ける。その際、漢字の組み立てや部首、成り立ちを意識させる。文法に関しては、ドリルパーク等を使って反復練習をさせ、定着を図る。	「書くこと」では、「相手に伝わりやすい文を書く」ということを意識づける。まず、自分の立場や根拠を端的に述べる言い方を覚えさせる。次に具体的に書く練習、情報を整理して明確に書く練習を行い、生徒同士で添削し合う機会を設ける。	発表・表現活動をとおり、相手に自分の考えや気持ちが伝わることの喜びを感じさせる。学び合いを通じて、相手意識を高めさせる。学習のめあてや既習事項とのつながりをはっきりと示すことで、振り返りをしやすくし、成長を感じられるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の小テストを継続して行い、日常的な漢字練習の場面を設ける。また、文法・語句に関する事項についても、小テストを行うなどして基礎的な文法事項の定着を図る。	「読むこと」では、文学的文章を読むにあたって、人物の心情描写に関する表現を正確に読み取らせるよう、キーワードへの着目を促しながら読み進める。「書くこと」では、読み取った内容を理解して書けるよう、キーワードの抜き出し、要約、添削等、順を追った課題を通して指導する。	単元ごとに各自でルーブリック評価を行い、単元を通してどのような力がついたのかを自分で把握できるようにする。また、適切な場面でICT機器を活用し、授業理解の一助とする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の小テストを定期的に行うなどして、引き続き基礎的な知識の定着を図る。また、語句を調べる活動を取り入れ、より豊富な語彙の定着を目指す。	「読む」の領域においては説明的文章の文章全体と部分の関係に着目させながら読み進めるよう指導する。「書く」の領域においては読み取った内容を正確に書けるように、文章の内容を捉えて自分の意見をまとめたものを添削して個別に指導する。	単元の最後に振り返りを行い、単元を通して身についた力を考えることで、授業のねらいをしっかりとらえさせる。また、ICT機器を効果的に用いることで、より深い授業理解につなげていく。